

風

6

見

偶感

部長 大竹 勝

今年度の就職には、いろいろと考えさせられるものがあった。ゆけても、強烈な成績優先は運動部一般にとって、厳しい試練であったようである。

ゆがヨット部の諸君も、船や空や海や風にかけては相当の訓練をつんで来たのであろうが、陸上での、特にビジネスの世界の会話には無経験で、まして自分を売り

込むなどということには不得手であったようであるが、幸にして一応どこかにおさまったようである。

しかし入社後のスタミナについては運動部には定評がある。更に入社後の勉強に深く留意するならば、ヨット部の信用は更に増大するであらう。入社後十年が本当の成績の見せ所である。

(送ビジネスは忙しいこと)

第十二期主将

青木良和

十一月に幹部交替を行ない、そして目前にひかえていたのは、五月のインカレであった。今までに引き継がれていた、合宿のローテーションにしたがい自分達なりに合宿を組みそしてアツというまに終わってしまったクラブの運営であった。おそろしく時間は短かった。

そして今、こつして無事クラブ活動を終え又風景に

原稿をのせる事が出来た事をこれまで暖かく御指導下さいました監督・コーチ、OB諸先輩に心より感謝致します。ありがとうございました。

第十二期主将

吉田昭夫

去年の夏合宿において第十二期主将に任命され半年になろうとしているわけですが、昨年中は、

短期インカレに出場しなかつたこともあって、クラブ全員が一団となつて一つの目標に熱意を向けるといふことに欠けたように思われます。そしてただ合宿を組んでヨットに乗つたという傾向がありその結果として、スキーパーもクルーも自分の仕事や艇の操作方法は覚えただけですが、それ以上の段階に到達するということが

なかつたように思われます。

五月に行なわれる春期インカレを三か月後にひかえ一週間後に今年始めこの合宿入るつもりですが、後に悔いを残さなうためにも、毎合宿を充実した熱意のこもったものにしたうと思ひます。そのための方法として、いろいろの記録を取らうと思ひています。その才一

としてレスキューボートに
ノートを積み、レスキュー
ボートの乗員は、すべて
の練習レースのスタート・
マーク回航・フィニッシュの
順位や各艇のとったコ
ースなど、レスキューボート
上において記録できる
事柄をすべて記録し
たいと思います。
また個人個人が陸に
上がってからその日の
練習についての思い出
しうることをすべて

き記録し、それらによ
ってチューニングの資料
としたり、合宿所での
ミーティングの手助けに
したり、合宿所外に
おいての話し合いの資
料となるようにしたい
と思います。
そして、その記録を基
に、コーチ・先輩方に
御指導を願いたいと思
っておりますので、
今後もしよろしくお願
い致します。

四年間の航跡

四年 北村典聖

郷愁

蝶のやうな私の郷愁……

蝶はいくつかまがきを越えて

午後の街角に海を見る。

私は壁に海を聞く！……

私は本を閉じる

私は壁に凭れる

隣りの部屋で二時が打つ

海よ、遠い海よ！と私は

紙にたたためる

海よ、僕らの使う文字では、

お前の中に母がある。

そして、母よ！佛蘭西人

の言葉では、あなた（*meine*）

中に海（*meer*）がある。

三好達治詩集より

大学生生活もあ、という間に

四年が過ぎ去りてしまった。

まだまだやりたい事がたくさん

あるが、振り返ってみると自然

に対してこれだけ多く考え感じ

た事はなかった。エイト部独得の

合宿生活は、今の学生にとって

納得のいかない点も多くあるだ

らう。しかし、二度合宿に来るや

その魁力にとりつかれない人間
はいないのではないかと……
毎日毎日、海とにらめっこをし、風
を感じる事は、心を大きくして
物事を見る目も、大人にあり
がちな偏見をなくしてくれ
るだろう。文化が発達しす
ぎて皆がせ心れがちに自然とた
れむれることのできた四年間、果
しい事ばかりではなかった。
冬のつめたい海は、人間の足を
完全に麻痺させる事は五分と
かからない。歯をくいしばって入っ
ていったものである。

あまりにも人間が、あつげな
動物である事を感じさせた。
男らしい海、雄大な海、こんな
海に四年間挑戦する事のでき
た自分は幸せ者である。
春一番、これは日頃風に敏感
なヨット部員にとって自然が与え
てくれるすばらしい贈物である。
荒々しい暗いイメージの海を一瞬に
して吹きとほし
あつげな人間が少しでも気をを
ぬくと艇庫の船を飛ばしてし
まう。小さくかがみこんで艇庫
まで行き、しかりしぼる事で

ヨット部本格的な一年が始まるのである。その後の息ぬきでやった麻雀の味が忘れられない。五月のレースに向って合宿は次から次へと続いた。自分自身との戦いであった。

スキッパーでうまく日頃の實力(?)が出しきれなかったのは、残念であったが、成績よりもその過程を、と大切にしたいと思っている。夏の海は北海道育ちの自分としては、こんなに暑いものかと、北海道を恋いこがれていた(北海道よりも西の方か?)練習の後、肩に、くいこんでくる

艇の重さは部員にとってこんなにつらいものはないであろう。この頃になると、機艀品もおぼえ、日に焼く表面的には、ヨット部員らしくなる。回りの荒崎も、ゆくり見る事ができた。日が沈んでゆき、富士山をバックに赤く照らされる荒崎の海を見て、はるかた北海道の釧路の海を思い出す。違う点は、荒崎は向に陸が見えるが釧路は海ばかり、海の偉大さ、大きさをつくづく、感じさせるのである。

自然に挑戦した人間は、一枚のセイルで風より走るヨットを作り、

大きな海を走り征服した彼と風
は、あつぽうな物をおしつづすかの
様に次から次へとぶつかってくる。

こんなにおそろしいものは人間社会
には絶対がない。

世界各国をつないでいる海、

海を受する事、理解する事は、
母を受する事になるのではないか、
生命の発生した海、最も短かに
ある自然それが海である。その海で、
ヨットに乗り、海を征服する事に命
をかけているヨット部員になつた
事をほこりに思っている。

四年間の日々は、ヨットで明け、

ヨットでくわいていった。苦しがつた
事、楽しがつた事、自然に対して
挑戦し、回りの人間よりも自然
に一歩近づいた事を、大きな
土臺にしてこれから人間社会に
飛び出してゆきたい。

(追伸)前文の詩で特に言いた
いのは、後半の部分であった。

風見

四年 佐塚 貞吾

早いもので私が大学に入ってからもう四年が過ぎようとしている。そこで今回の風見は過去四年間の印象の深い田代い出をつれづれなるままに申言りて見たいと思つて。
◇まず一年次

ヨット部に入部したことー
かめいい新入生であった小生は田中氏・井波氏などにより勧誘された。当時先輩たちの顔が鬼のように見えたものだった。青木氏といつしよに北陸へ行ったことー 大学生生活で唯一の

旅行らしい旅行であった。田中さん、その節はお世話になりました。初めてレースに出たことーヨットがたくさん居たので感心しました。
ダンスパーティーをしたことー
始めて女性をいただきました？

Mr. ヨン氏の合宿参加ー
彼は御飯にソースをかけて食べました……。

◇次に二年次
バスの車掌のアルバイト経験であった。

夏休みに軽井沢へ旅行ー
当時の私はなぜか幸であった。
秋ライカカレー 非常に風が強く何度となく凍しそうにな

りました。

大雪が降ったことー 普段あまり雪を見慣れていない私はびっくりしました。

戸塚でバイトしたことー ドリルの穴あけ作業はほんとに死ぬ思いでした。みんなよくがんばりました。

〇として三年次

夏休み松島に遠征ー 松

島の海は景色がよかった。

470級決勝進出ー 全日本の壁は厚かった。

年一度末試験科目征服ー 情報集めに苦勞した

〇日取後に四年次

春季インカレ出場ー とにかく

大変でした。

以上の様なことであります。

その他いろいろな思い出があります。すがとりあえず適当にまとめました。(完)

終止符

四年 宮田 晃

いよいよ現役ともお別れ。準

OB、ホツとしたような、物足りないような、やはり淋しい。ヨットに乗れなくなるのは。もし現役ならあそこをあのようにしてー。3

年生に対する不満、2年生に対する不満、1年生に対する、そして

自分に対する不満。甘かったの
かな。こんな気持ちで終っては
ならないのに。これで良かったの
だと信じて終りまぬばなうな
いのに。

ヨットがすべてだった。その為
に愛さへも捨ててしまった。私
が悪かった。君はもう許して
はくれぬのだろうか。君の為
になうヨットを捨てるべきだった。
その方が楽しい学生生活を送
れただろう。若いがゆえに選
んだ苦しいヨット部生活だった。
君の胸はあんなに暖かった

のにー。私は冬の冷たい海で
ハックションー。

苦しむ事に疲れた時、それは
年をとったかうだ。若者は自
分の信じた道を一生懸命生
きればよい。たとえ失敗して
もいい、苦しんでもいい。それを
原動力にもうと大きな自分に
成長するのだから。

1976 ARASAKI

B.E.A.C.H

三年 吉田昭夫

今、ぼくたちは、学年末試験を一週間後にひかえている。そして、その三週間の試験期間が終わるとぼくたちは3か月ぶりに荒崎の海に行くのである。

海は来る日も来る日も強い北の季節風が吹いているだろう。そしてぼくたちは、来る日も来る日も海に出ることができず、風が落ちるのをひたすら待つのである。そしてある朝、昨日

までせまらなっていた海が嘘のように静まりかえっているのである。そしてその朝は、ぼくたちは、実際に艇を出すための艇装をするの。そして朝食の後、今年、始めて艇を出すのだ。海面は、朝、艇装した時より少し風が吹いてきたらしく、さざ波が少し立っている。

つぎつぎに艇を波打ちぎやまで運んでいく。そして、今年始めて海水にふれるのだ。11月の海さは比べものにならないうほど2月の海の水は冷めたい。やつのことでセイルを上げつぎつぎ

と荒崎港からヨットは北の
らら4メートルぐらゐの風
をスタポートサイドから受け
すべるように出ていく。真
直ぐ前に燈台が見える。
ポートサイド側に荒崎の岬
が見える。その先に葉山が
見える。そして、そのまた先
にかすかに江の島が見え
るのだ。ぼくたち以外にどこ
にも船影は見あたらない。
駒沢も明治も立教もまた
合宿に入っていないようだ。
ぼくたちは、今、三か月ぶり

にヨットに乗っているの
だ。三か月ぶりに荒崎
の海に来ているのだ。ぼく
たちは今年一年この海と
この荒崎の海とともに暮
らすのだ。そしてぼくは
静かにクルーに「スピンを
上げるぞ」と言う。

独冬ニ街行（ひとり冬の街を行く）

今、私はもうすっかり
陽の落ちた街を急ぐ
人の足音も早く
それが金属音に聞こえ
る　　そして風もまた
早く過ぎていく
私を残して　葉のな
い樹木も震えていた
その時ふと、空しさが
込みあげてきた
それに負けまいと鼻
歌を歌った……が、

出てくるのは、淋しい歌ば
かり
寒さのためか空しさのた
めか目が潤む
駅のマイクの音も遠く
へ消えていった　何もかも
が関係なく消えていくよ
うだ　　うだ　　うだ
その時、「センパイ」とい
う声にからだの中に
灯りがついた。

この二年間

二年 井関信一郎

風見の原稿を書かぬは、

……と思ひ始めてから早や〇

有。筆不精かつ文学的才能

のまるで無し小生としては非

常にかつたるく、ハガ書こう

と思つても何を書いたらいい

のか何も思ひつかない、という

のが現在の状況である。テーマと

なるべきことがらが、ただ、ひたすら

に頭の中をぐるぐる回っている

ばかりである。やはりヨット部である

のだから、ヨットをやり始めてから
のこの大学生生活二年間のことで
も、書いてみようか。

中学・高校を通じて、あこが
れていたスポーツ、それは、ヨット、

グライダー・モーター・スポーツなど
のハイウエッジかつカッコよさあられる

(と思われがちな)スポーツであり、

大学に入って即、ヨット部の扉を叩

いてみたのであるが、扉を叩いてみ

たのであるが、扉を開けてみ

たら、それは想像を絶するよう

な(冗談)世界であった。あれから

もう二年たつてしまつた。月日の流
れるのは早いもので、大学生生活も
丁度半分終わり、ヨツトの苦し
さ、楽しさ等もやつとわかりかけて
来た今日この頃である。思えばこ
の二年間は、食当と肉体労働
（？）で終わった様な最初の
一年間、そして初めてクルー
として出場し、夏休みからは
スキッパーとして練習して来
た二年になつてからの一年間
はあつという間であつた。

春のレースでの経験は、ヨツ

トというスポーツがいかにか天候
によつて左右されるものであるか
そして強風の時にはこゝなにも
厳しく、つらく、そしてその厳しさ
を乗り越えた時の嬉しさや壮快
さなどをつくづくと感じたもの
だつた。

昨年の夏の幹部交替の時に
は、会計という責任重大な役
を頂戴したが、それもどうにか先
輩のおかげで続けることができ
ている。クラブのこゝしか思ひ浮ばぬ
二年間であつた。

思うがままに・II

二年瀬戸本哲哉

きょうは前期と後期の間で休みであった。私も久しぶりに下宿に一日中いたので、これをかくようになったのである。そして、きょうは十月一日。スポーツ・読書の秋なのである。私も二年になつて半年が過ぎたのである。

ひとりになつて何もするところがない時は、いろいろなことを考えるものである。とりよめのなれいようなことばかりではあるか。

街を歩いていても、十月ともなると異常であつた。あの九月の残暑も全く影をひそめ

冷んやりと感じるものである。季節的(気温的)には春とも似てはいるが、やっぱり違うものである。春のよつな共々いエネルギーはなく、周囲の躍動感もないのである。そして往きかう人々までかなせか息ぎ正に感ぜられるように向三には、冬が待つてゐるのである。

フ口野球もそろそろ終幕。広島島の強さに、私はうれしいばかり。この間も、このうれしさをぶつけるものがなく、友人と酒を飲んでゐる時に、広島が優勝した。「オールド」をお三ると言つてしまつたのである。今、考え

てみれば、金のない私がよくも言
ったものだ。後悔の念にせまた
てふれるのである。

読書の秋存のであるが、私
も大學生になつてから時々
単行本も読んだりもするが、
それも持続性がないのである。
こつ今回は、じっくりと燈下親し
む秋で本を読みたいものであ
る。

大學に入つて私は今まで何
をしてきたかどうかと、ふと
思つたりもする。昨年は他
に何かすることか、大學では
あるのではないだろうかと思
つたりもしたが、今では

もう慢性化したのか、深酷には
考えなくなつてしまつた。でも
私は思ふのである。とにかく
大學の間は、いろいろと経験し
よう。そして自分の好きなこ
とができるのは、今しかない。青
春はもつやうて三ないのだ。



提供: 赤ヘル軍団

ヨットと因心寵

関司郎 八二年

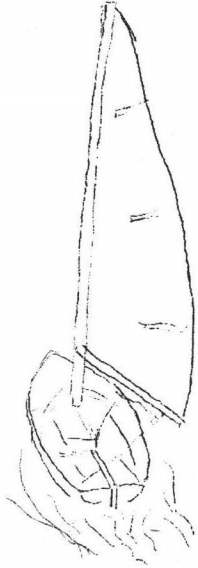
ヨットと因心寵にどのような関係があるのか不思議なことだが、私個人にとっては、現在のヨットは、思寵であり、悪寵の明かしが、ヨットでもあるのです。悪寵と言えども、どこかの宗教とみかけがあるわけではなく、ただ何か上の存在が気にかかるからなのです。

海へ出て、風をからだにほかに感じて、波のしぶきをうける

時、何ともいえないすがすがしい気持ちになるのは、そのせいでしょうか。また、海の風は、陸の風とは違った性質があるように思えます。そして、このすがすがしいは、ヨットをある程度やってきた人なら感じることだと思っております。そして、このことは、特に小型のブギーなどによってからだをぬらしてこそ感じられるものであって、大型のクルーザーのキビンの中にとどまってたのでは、わからないだろうと思っております。

ヨットを知ることによって私のま

たく知らなかつた感性がまた、
ひとつ目覚めることができた
のです。私の中にあといくつの
未知の感性が埋もれているのは、
まったく見当もつかないこと
です。ただ因心寵が次にどの
ようなかたちで私の前に姿を
あらわすかということを知り
待ちかまえているだけなのです。



海之道

嵐の翌朝、浜には、魚などの死骸・
海藻・丸太・空ビンなど様々なもの
が、打ち上げられていた。海の日
は、不快なものすべてをばき出す
ことで始まっていた。海は、油断の
あるすべての生命から、その人格を
奪い去ってしまう。

海の生命の流れのままに流れる
ものは、疲れも感じないし、涙を流
すこともない。直すことも、改める
こともない。

(老子のことばからの発想)

つれづれなるままに

清水 千佐子へ一年

あわただしい毎日、今思えば時の流れのままに過ごして来たこの六ヶ月、やっと私自身おちつき、ゆとりを持てる様になった気がする。そして「ヨット！」このあらたなスポーツを受け入れた私に、また新しい生活がはいまつている。

毎日の通学に要する一時間半。

それは私にとって、とても重要な時間となっている。

ねむるのになうど適当な時間であり、もちろん読書などするには適当な場所でもある。その本を読みながら、また、夢を追っているが、幻想にふけるのも楽しいものである。

ある時は「銀河鉄道」の列車に乗って、銀河系を回り、あの主役になって恋人を捜し続ける。ふと気がつくと、そろそろ乗り換えの場所、また、電車にのって続きを考える、。。。。。

私は、こうしていつも夢を追っているのかもしれない。

また、ステキな人に目を付けたり……？。そして考え事がある時、ひとり静かにへやに閉じこもって考えるのもいい、けれど電車にゆらゆらながら、いろいろ変化する景色や、周囲の変化に目をやりながら、考えを整理するのも、納得がゆくものである。

また、何も考えず無心になっているのも、むだなことではない気がする。その空間において、無心になることに集中して、次元をかえる。我にかえた時、は

っきり自分をつかめる気がする。

また、適当なヨットの勉強場ともいえる。すわっている人の位置関係について、あの位置は、何時か？。他いろいろな問題を考えて勉強できると思う。

この様に、むだに過ぎやすい時をヨットをやる中で、いかに私自身、充実したものとしたいかが、これからの私の課題である。

私にとってヨットとは……

大竹みどりへ一年

私は大学に入るまで、全くと言っていいほどヨットという存在を知らなかった。

では何故そんな私がヨット部に入ったのだらうか？それはただ単にさそわれたから入ったというのではない。クラブ内の家庭的なふんいきに引かれ、それ以上にヨットという不思議な乗り物に魅せられたのです。一番最初スナイプに乗せていただいた時、一本のシートを引

きかえるだけで、自由に方向が変えられるではないか、それがとても不思議に思えた。それに、二人乗りのヨットには、船長さんと乗組員さんがしっかり決まっていて、それぞれの仕事までが、しっかりと決められているのすら不思議であった。このように何も知らない頃はただ一人で不思議がっていた私でした。それからほぼ半年が過ぎて、ヨットに対する考えが変わってきたような気がします。それまでは、ただ好奇心のよくなるものオンリーだったようです。でも今はスナイプの船長さん、つまりスキッパー

を練習して、つくづくむずかしい
スポーツです。なぜなら自然^然を相
手にとりくむがうです。それです
私は、お天気など全く関心を持ち
ませんでしたが、今は、そうもいきま
せん。毎日、天気図とにらめっこして、
台風がきているなどと、つねにこころ
から心を配らなければなりません。
でも最近では、だんだん天気の方
もわかっさて、楽しみながら、
新聞の天気図を見えています。
このように、今の私の毎日、ほぼ
ヨット中心に動いています。

本当は大学生なんだから学業
中心でないといけなんだけど……
最初は、大学生活の大切な二年間
をヨットだけにかけるのは……と
考えたんですけど。
ヨットに魅せられるところが少し
でもあったら、これからも、ずっと
ヨットにがってみようと、
どんなに苦しくても、
どんなに悲しくても、
結局は、私のためだもん。

現在の心境

赤米一生八年

僕が、クラブに入ろうと思つたのは、初めての一人生活の寂しさの中で、早く友達をつくりたかつたからであろう。またヨット部を選んだのは、故郷が海の近くで、子供の頃から、海に親しんで来て、海が好きだからだと思つた。

最初、合宿所に行って驚いたことは、汚い布団と服を着たまま平気で海の中へ入って行くことであつた。しかし、慣れというものは、恐ろしいもので、

現在では、布団のことは、何とも思わなくなつて寝られるし服のまま海の中に入るのは、ちやうちなするどころか、かえって楽しいやうな感じがする。

クラブに入る時は、六月日、ほとんど合宿がないと聞いていたが、いざ入ってみると、なにごろか、週末は、いつも合宿でつぶれて、今だに、東京については、半分も知らないというのが実際のところである。また、授業に出席せずに、練習をするなんてことは、高校時代には、考えもしなかつたことである。そして、このことについては、今でも、考えさせられる

ことがよくある。

さて、ヨット部に、入部した者の中で、何人かは、退部していった。

その者達には、それ相当の理由があると思うが、僕が、体を休める時間がない生活の中で、えいほほど深刻に退部を考えたことがなかったのは、なぜだろうか、

そいほどヨットに魅力があるのかどうかは、わからないが、一度やりかけたことを途中で投げ出すのは、以前から、好きではなかったし、そうだった場合、

もはや、自分自身に負けた、負け犬であると思っていた。

クラブに入って、いろいろな先輩、同輩と接してみて、自分自身、学び採った物は、未山あたと思うし、これ方もあると思う。今後も、できるかぎり続けて行きたいというのが、現在の心境である。

海は本当にすばらしい。

佐藤則夫(二年)

人間の顔に表情があるように、海もいろいろな表情をもっている。おだやかな時、恐しいほど怒っている時、悲しんでいる時、その他いろいろな表情をもっている。

私は、ヨットに乗っている時に海の顔を見るのがとても好きだ。海が怒っている時などは、うねりが激しく私たちのヨットを揺らし、容赦なくしぶきが、私たちに襲い

かかってくる。その時の様子を人間にたとえると、頭にカッパと血が上って見えかいたく暴れている人のような感がある。その時などは、私はすぐにも陸が恋しくなり、口はやく陸にあがりたい。と常に思う。

海が悲しんでいる時などは、天候もいっしょに協力し合っているように、小雨がぼりついて来る。なんとなく空全体が、陰険になり私の心も暗く沈んでしまう。

私の最も好きなる海の表情は、おだやかで温和のような時である。そうい

う時にかざって雲は、まっ白な雲
に変わり、いまが時とばかりにとっ
ても澄み切った青空になり、ヨッ
ト日よりというような波と風
が吹く。こういう時に、ヨットに乗
りながら、海を見つめていると
「ああー、今、自分は生きてい
んだ。凸というふうなビーんと
痺れる幸福感がある。

私にとってヨットは、海であり、
海は私の魂である。海に沈む夕
日の美しさは、言語に達するとい
ふがあり、海の上でヨットに乗っ

ている時などは、自分の二つの
手が動く、そして二つの足が動
いている「ああー俺は、生きてんだ。」
と強く近頃、思うようになって
きた。

ああー本当に海は

すばらしい



人間のふるさとよ、

そして、

私のふるさとよ。

私とヨット

丸山以久子二年

私が生まれて始めてヨットに乗ったのは、この大学に入ってからです。ちょっとした好奇心だけで、ヨット部の合宿所へ行っただけ。四月の半ば頃だったと田心う。ヨットは、あたり前の事だけれど風を帆に受けて走る乗り物だから、エンジンがついていて走る船とは違って、頭を使って、いかにうまく走りせるか。それだけに、やりがいのあるクラブ

だと思う。かと言って私モ女の子。クラブの時以外は、いろいろな事に、夢みる年頃なのです。学校へ行っている時、そして好きな本を読んでいる時。友達との楽しいおしゃべり。クラブが急がしいだけに、時間の一秒一秒が、とっても大切なのです。だから、合宿所へ行っている時は、ヨット以外の事は考えず、それだけに集中してやろう。短い時間を、いかに充実させてゆくか。クラブを通して私は、つくづくこの事を考えさせられた。夏休みも終わり、

涼しい秋となり、自分とい
う人間を見つめる季節に
なった。とでもいうのでしようか。
アパートに帰り、夕飯を食べ
終わり、ラジオのスイツチを入
れて、静かに流れる曲を聞き、
ながら、物思いにふける今日、
この頃です。そんな時、無性に
また本が読みたくなり、本の中に
自分を見つげたくなるんです。
でも、まだ今はじっていると、時間
にふり回されそうです。そして、
結局は、何も残らなったりして、

あゝあ。やりたい事がいっぱいある
欲ばりな私！

その中で、やっぱり一番私を燃
えさせてくれているのはヨット
かしら？

最も、合宿所で、一番どじをして
いるのも私です(うぐ)。……

……おほずかしい話。

四月からもう六ヶ月が、あつとい
う間に過ぎてしまったけれど、技術的
には、まだちょっと進歩していないような気が
します。というのも勉強不足の自分の責任です。
心をあつたにして、今度の合宿へ行こうと
思っています。

昭和50年度 活動報告

1月(睦月)

12~16 大相撲アルバイト

2月(如月)

8 追い出しコンパ (荻窪)

10~13 強化合宿

25~28 強化合宿

3月(弥生)

13~24 強化合宿 (葉山廻航)

25 卒業式

28~4/1 インカレ強化合宿

4月(卯月)

3/28~4/1

5~6 インカレ強化合宿

11~13 インカレ強化合宿

7 バッジテスト (全員中級合格)

4~6 新人生勧誘 (説明会で8ミツ上映)

17~20 インカレ強化合宿

25~29 インカレ強化合宿



5月(皐月)

2~9 インカレ合宿
11~25 大相撲 アルバイト
16~19 合宿 (荒崎廻航)
23~25 合宿 30~6/1 合宿

6月(水無月)

6~8 合宿 13~15 合宿
20~24 合宿

7月(文月)

6/29 ~ 15 強制バイト (立川高島屋)
16 ~ 18 整備合宿

8月(葉月)

22 ~ 30 夏合宿 (24 OB現役戦)

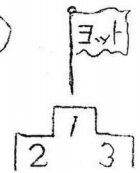
9月(長月)

5~8 合宿 12~14 合宿

15 葵祭水泳大会参加 (高井戸)

14~28 (女子部随大活躍) 大相撲アルバイト

19~24 合宿



10月(神無月)

3~5 合宿

21 第1学生会館2階に新部屋をもつ

10月(神無月)

23~26 合宿 29~31 合宿

10月30日~11月3日

11月(霜月)

葵祭

15~19 合宿

3(最終日) 部員全員で
楽しむ

12月(師走)

4~24 強制バト(立川高島屋)

14 納会

合宿 アラカルト

○夏合宿 後半 油壺へ行く

紅白水泳大会を行い優勝チームはマリンパーク
見学 最下位チームは陸張り(実は油壺のヨットを
すいか割りを行い無事 荒崎に帰港 見に行く)

(紅軍優勢で展開したが 紅軍 男性泳者が
白軍 女子泳者に抜かされ 白軍 逆転優勝)

○合宿所2階 ハランダに 大きな すずめはちの巣が
でき 地元民も見学に来る

○葵祭水泳大会で 女子部員 大活躍
上位3位までに どの種目も2人が入賞

部員紹介

① フェリシタ
② 持唄

◆ 四年生 ◆

青木良和(済・東京)

十一期主将

① クラズの巨葉 ぶしりとし
抱容量があり部員から慕
われる。理論派リーダー

② ジュリー 加山雄三……etc.

佐塚真吾(管・静岡)

十一期副将

① 天性の明るさからクラブ
内に笑いを送りこむ
パチンコセミプロ 競馬も好き
トラック野郎一番星か?

ヨットにのるとテクニシャン

② 清水次郎長(……郷土色
豊かな歌(瓶を片手、両手に
持ち頭を振りながら歌うは
最高)

北村典聖(済・北海道)

総務

① 根性をベースに熱く語り
「H」なお話も好き
ヨットにのると「ガッツ」を出
しめる根性派

② 一つ出たホイのよきホイのホイ
研ナオユ……etc.

宮田 晃(菅・鹿兒島)

学連

① 薩摩隼人・二枚目で部外の

女性をひとり占め?

真剣な目つきはさすが、

ヨットレーサー

② ルミ子ちゃんにめぐみちゃん

◆ 三年生 ◆

吉田 昭夫(菅・東京)

十二期主将

① スマートさが売物の典型的現代青年

ヨット、セニス、は抜群 //

② 「ヤ」がしものは何ですか……」

◆ 二年生 ◆

瀬戸本 哲哉(済・広島)

総務

① 桂三枝の弟のような笑いの

たえない人「グー」を連発する

芸能百般のヒト

② 渡哲也でデビューして、今は

裕次郎クラブの美声の持ち主

井関 信一郎(菅・東京)

会計

① ブルマを乗りまわす現代っ子 //

長、髪と大きな目がトレードマーク

②ロック狂だが、コンパではオーケ中心
ヤヤ、芸不足か？

東海林孝文(済北海道)

ストーカー

①根性をもったマジメ人間「ひろみ」
のイメージから脱却か？

②ユーミンを中心に歌い、楽しく
騒ぐアクションがすばらしい

関 司郎(済埼玉)

学連

①海にあこがれ続けて、はや二年目。
もの静かな性格がヤヤ、いいか？

②「わが良き友よ」を中心にブレイクを歌い
ロックがかかれば踊り出す！！

◆一年生◆

赤沢一庄(宮・岡山)

①お国こそばをまじえて、笑いをまき
散らす。セミのものまねは十八番

②「ラバウル小唄」ツナギルック
でせまる多芸の持ち主
舞台狭しとかけずり回る

佐藤則夫(宮・福島)

①小柄ながら裸になればオトコ
もほれなおす肉体美
さすが元レスラー

大竹みどり〔短・東京〕

① 一見、フツワの女子大生、実は、八百屋のイネゴ、すべての面で、他の女子部員より、すすんでる。

② 小坂明子をは、すかしそうにして歌う、三人そろってのキメ、ダンスのメドレーは、**巨巻**！！

柿沼 孝 (菅・埼玉)

① 自然をこよなく愛する元山男、山から海へと移って気分一新か？

② 山の唄

佐藤則夫 菅 福島

③ 会津磐梯山 その他民謡

清水千佐子(菅・長野)

① 愛称「チイマン」小柄ながら、バスケットでエース、馬力はなかなか、将来にそなえて、永年就職口(オヨメサン)をさがしているらしい。

② 若手No.1の有望株

丸山以久子(菅・長野)

の赤沢と共(ん)にひょうきんさは、抜群、イッちゃん(ん)が愛称、一見、小学生風

実は、はたちの乙女(中村雅俊にそっくり)

② ハスキーな声で、左リツシのメドレー、赤米(ん)とのコンビがピッタリ！！

— X

— 7

470

昭和50年度ヨット部 五題 ニュース

風見号外版

1 学生会館完成、217号室に部室移転

昭和50年9月に、一昨年より建設中であった第一学生会館と
葵陵館が完成した。今までのほこりっぽい物置場的共用部室より
学生会館の217号室に移って、いかに名刺とも、クラブとして一人前にな
った感がある。そして、さっそく椅子と机を購入し、4年生の北村先輩
から書棚の寄付のある予定でミーティングや食堂、喫茶室・勉強室
など、部員のいこいの場として大いに利用されている。現在、
私たち、現役が新部室に移れたのは、OB方の努力があったのを忘れては、
ならないであろう。

2 新ユニフォーム作成計画中

かねてから懸案中であつたクラブのユニフォーム作成の計画が
実施にうつされ、10月中に数人の有志が都内の小売店などをめぐり
歩いた末、上野御徒町間にある通称「アメヤ横町」内の岸本洋品店で
ジャンパーを一括購入した。スタイルは黒地にえり、そでに赤いライン
が配されたもので、従来存在していた薄いテニス・ジャンパーと違って
裏地もついていて、冬は暖く、春秋は快適に過ごせるようになっていて、
外出着としても利用できそうである。特に注目すべきことはえり型
の斬新なデザインと、横須賀市内でしゅうにかけては、最高の腕
をもつ、23年の伝統と歴史をもつ「矢将シンしゅう店」へ発注した
ワッペンである。このワッペンには、エンブレムは円形で、中央に
ボートのイラスト、その上にT.E.C. YACHT CLUB、その下にARASAKI
BEACHの文字を配してある。荒崎の文字を加えることは地元
からの強い要望(?)であり、江の島・油壺に次ぐヨットのメッカと
なる予定(?)であり、先見の明があるともいえるであろう。

3. ヨット部主催夏合宿恒例荒崎歌謡大賞 選考会 開かれる

毎年恒例の歌謡大賞の選考会とその表彰式が夏合宿中の8月某日、荒崎合宿所内の会場にて行われた。審査は、これも恒例の4年生の方々がおこなった。そして、厳正なる審査の末、次のような結果がでた。

荒崎歌謡大賞

歌唱賞

新人賞

特別賞

”

瀬戸本哲哉 「くちなしの花」

清水千佐子

吉田 昭夫

東海林孝文

今年は、ミニートされた人数が11名と少なかつただけに激戦が予想されたが、日頃の練習の量の違いがはきりとあらわれて、すんなりと、上記の4人に決定された。

4. 激写!! ヨットの真髄

11月16-17日の2日間に荒崎において一流カメラマン志望の写真部部員の森くんによって「スポーツとしてのヨット」「集団生活とその生態」をテーマとして撮影が行われた。16日は、天候の悪化のため、出航はできず17日も午前中、依然として風はやまなかったが、昼前頃からなごはため、出航する事ができた。なごはたといえども、470 俾は、トランプス、スライア陣は限性のハイクアウトのしどろしどろであり、スキューにのった森カメラマンにとっては絶好の被写体であつたりしくシャッターの音がたえずなく間にえていた。

5. 冷蔵庫が寄贈か？

11月30日、瀬戸本東海林両特派員からの報告によると、荒崎合宿所に大家さんである秋本さんから冷蔵庫の寄贈があつた模様である。これは秋本さん方で冷蔵庫を新規購入したため、今までのが不用になつたためと考えられる。

ヨット部 予選 番付

(東)

(西)

寸評		寸評	
宮田	先輩恐れいりました!	〈横網〉 吉田	頂点を過ぎると意外にももろさか
北村	とにかく楽しい酒です	〈大関〉 関	秘密練習を重ね 足腰のもろさを克服か? 一役大関昇進!
赤沢	飲みすぎるとあばれ出し 手のつけようがない 要注意!	〈関脇〉 佐塚	楽しく酒を飲む位です そして十分力を出しきるとどこかでいびきの音が
青木	早飲みではすばらしい速攻をみせるか 長びくとだれかのふとんの上に横たわってブーゲー	〈小结〉 清水	女子のハンディを考慮され 三役入りを果たす 立派!
瀬戸本	酒はきついではないか 決め技を欠き 壁につき あたって伸び悩み	〈前頭〉 佐藤	酔いつぶれ 次の日の出帆の時のフラフラが 印象的 もっとがんばれ
東海林	気が向いた時は自己を忘れ 飲みだし かつお癖あり してブーゲー	柿沼	ひとりでも何かをやり始め? 若手だけに来年は三役入り を果たしよう ホープ
井関	七・八分飲んだとこで ふとんをリークし すぐ眠る 準備	大竹	目が潤んできて フラフラ 若手だけに まだまだ伸びる可能性あり
丸山	以前にも増して 涼しい目になってきて すぐダウン ニハからの精進を!		

(総評) 横網・大関あたりは実力を備えているか
 あとは どんぐりの背比べ
 まさに 戦国時代 頑張ってください。
 (評: 神風)

編集後記

今回で、第六号となるこの風見を発行
できて、たいへんうれしく思っています。

この編集にあたり、毎の文集を出すことがいかに
たいへんかを身にしみて感じました。

そして、御多忙の中、御寄稿して下さいました
先輩方、制作に協力してくれた編集部員に
厚く御礼を申し上げます。

この原稿が、出来さ上がる頃は、試験もあわり
に近づき、三ヶ月振りに合宿がはじまり、

五一年度ヨット部の活動も、開始されます。
冬眠から目ざめた動物にしては、少し早すぎ
ますが、今年も新しいシーズンをむかえて
はりまわって、いこうと思っけています。

この風見編集を一年間のしめくりとして考え
ずに、今年の初仕事として、編集後記をおわります。

昭和五一年一月

編集局代表

関 司郎

編集部員

瀬戸本哲哉

東海林孝文
井関信一郎

東京経済大学

体育会員部